

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立長南小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 61人）

4. 調査の内容

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

- （ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- （イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- （ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問紙調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問紙調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

（2）学校質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・中央値は9問と、少し全国より低い。「書くこと」の領域に課題がある。
平均正答率（本校 60／泉佐野市 62／大阪府 66／全国 67.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特 徴 が み ら れ た 設 問
<設問番号1一> ○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうか。 (52.5/64.7) <設問番号1二> ○図表やグラフなどを用いて、問題点と解決方法をかくことができるか。 (19.7/26.7) <設問番号2二> ○目的に応じて、文章図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうか。 (45.9/67.4)	<設問番号2三> ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるか。(63.9/62) <設問番号2四> ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるか。(37.7/56.2)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。①②	46.5	61.5	○	15
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。①②	98.2	92.8	◇	5.4
国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか。①②	83.9	76.8	◇	7.1
読書は好きですか。	58.9	71.8	○	12.9
解答時間は十分でしたか。(国語)	70.4	64.1	◇	6.3

- 漢字（ことば）の意味を捉える力、漢字を正しく使ったりする力が弱くなっている。
- 長文とを感じる文章から、質問の意図を読み取る力や理解する力が弱いそのための誤答がある。
- 読書の好きな児童が少ないことに関連して、物語の内容や会話文をイメージする力が弱いと感じられる。
- 情報（図や表など）を用いて、自分の考えを書き表すことができない。
- ★経験不足を補う・・・読み聞かせやかかるた → 語彙力を増やす
- ★書く力を向上・・・低学年からたくさん取り組む。（日記・ふりかえりジャーナル・読み聞かせの後の感想など）楽しく自由に書く活動から、正しく書くことへ移行していく。また、書く前に話す活動を取り入れ、しっかり広げてから書く活動に移る。→書くことへの苦手意識を下げる。
- ★本から学ぶ・・・図書館を効果的に利用する。借りた本を効果的に使ったりする。（クイズづくりや説明文づくり、調べ学習など）また、意味調べなどにも短時間で効果的に取り組む→ 学びの深め方を体験させ、主体的に学ぶ力を養う。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は全国とくらべ低く、特に図形の性質を言葉で表す、活用すること課題がある。
平均正答率（本校 54／泉佐野 59／大阪府 62／全国 62.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問	
〈設問番号1(4)〉 ○全部のイスの数を計算するために 50×40 を計算する (65.6／80.8)	〈設問番号2(4)〉 ○テープを直線で切ってできた2つの三角形の面積の大小についてわかる (4.9／20.8)	〈設問番号3(4)〉 ○ $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ (19.7／47.6)
〈設問番号2(3)〉 ○切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。 (14.8／24.9)	〈設問番号4(3)〉 ○二つのグラフから、30分以上運動した日が「1日」と答えた人数に着目して、わかることを書く (41.0／56.2)	
〈設問番号3(2)〉 ○3種類のファイル23人分を並べた長さの求め方と答を記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかは判断する (54.1／70.3)		

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか①②	55.3	61.4	◇	6.1
算数の勉強は大切だと思いますか①②	94.7	94.2		0.5
算数の授業の内容はよく分かりますか①②	80.3	81.2		0.9
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか①②	92.9	93.3		0.4
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか①	85.2	80.3		4.9
解答時間は十分でしたか（算数）①②	88.6	84.5		4.1

○機械的に計算はできるが、考え方やわけをきかれると必要な言葉を使い端的に説明できない

○割り算の筆算はできるが、一つひとつの計算の過程が意味することが説明できない

○問題の意図を把握しないで安易に解答してしまう

○無回答や的外れな解答も多い中、テスト時間が十分であったと答えていることから、意欲的にじっくり問題にとりくむことができていないことが考えられる

★考え方や求め方を説明するときやまとめを書くとき、的確に端的に説明できるよう、問題の意図や必要な言葉、数字を意識するよう支援する。また、見通しをもたせ量感覚を養うために見当をたてる練習をする

★自分の考えを書くときは、教科書の例などを持ちいて練習し、できた伝わった経験をかさね意欲を育てる。また、友だちの考え方を自分の言葉で再現する練習をするなど、ペア・グループ活動などを効果的に使う

★一問一答になるような問題ではなく、例えば「正三角形の性質を述べる」といような理解が深まる問いをたてる

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種別	本校の状況	本校＜本校回答率／全国回答率＞
【学校や先生との関係について】	<p>・自分を褒めてくれている。</p> <p>・分かるまで教えてくれている。</p> <p>・相談したり，頼ったりできる先生がいる。</p> <p>特に以上の項目の割合が全国を上回っている。</p>	<p>(5) 先生は、あなたのよいところを褒めてくれていると思いますか。 〈89.2/82.6〉</p> <p>(6) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。 〈100/93〉</p> <p>(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 〈84/68.5〉</p>
【家庭生活の様子】	<p>遅刻する児童もあり，起床時間や朝食を食べているかで学習に向かう意欲にも影響している。</p> <p>家に本がどれくらいあるのか，図書館等へ行く機会があるのか，について割合が低い。</p>	<p>(1) 朝食を毎日食べていますか 〈82.1/93.9〉</p> <p>(21) 昼休みや放課後，学校が休みの日に，本を読んだり，借りたりするために，学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。 週に4回以上 〈0/2.5〉 週に1～3回程度 〈3.6/10.9〉</p> <p>(22) あなたの家には，およそどれくらいの本がありますか。 0～10冊 〈28.6/12.9〉</p>
【家庭学習の様子】	<p>家庭学習の時間が年々減っている。全国に比べても数値がかなり低い。スマホやゲームの影響と関係している。</p> <p>コロナ禍の関係でなかった行事も徐々に増えてきたが，昨年度までの影響もある。</p>	<p>(16) 家で自分で計画を立てて勉強していますか。 〈46.4/70.7〉</p> <p>(17) 学校の授業時間以外にどれくらい勉強しますか。(1時間以上) 〈44.6/57.1〉</p> <p>(18) 学校が休みの日に，1日当たりどれくらい勉強しますか。(1時間以上) 〈28.6/52.5〉</p> <p>(25) 住んでいる地域の行事に参加していますか。 〈60.7/57.8〉</p>
【学習活動について】	<p>ICT 機器を使った学習が勉強の役に立つと思っている。</p> <p>校内研究主題である，話し合い活動を通じて，自分の考えを，広げたりすることができていると感じている。</p>	<p>(30) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。 〈100/95.1〉</p> <p>(36) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか。 〈80.3/81.1〉</p>

本校の取組

◎これまでのとりくみ

【学習面】

- (1) 少人数習熟度別指導
算数と国語を中心に、1つの学級を複数の少人数グループに分け、そのグループごとに教員が指導し、よりきめ細かな指導、発表や質問がしやすい環境をめざしている。
- (2) 長南タイム（朝学習）
1時間目の授業が始まるまでの10分間を活用し、読書や漢字にとりくんでいる。
- (3) サポートタイム（放課後学習）
金曜日の放課後、家庭と連携を取りながら、学習に課題があった子どもたちと学級担任が、個々の課題を克服するためにじっくり時間をかけて課題にとりくんでいる。
- (4) スキルアップルーム（学期末学習）
4・5・6年生の希望者を対象とし、子どもたち自らが進んで自学自習する態度を身につけることができるように実施している。
- (5) 算数サポーター（月、火、木、金曜日）
算数の授業に入り込み、子ども一人ひとりによりきめ細やかな支援を行っている。
- (6) 自主学習の推進
児童の主体的に学ぶ態度を育てるため、自主学習ノート（やる気ノート）にとりくんでいる。
- (7) ICT活用授業の推進
ICTを使用した授業を積極的にとりいれている。（研究授業実施）
Chromebookを持ち帰り、課題を送り、宿題などの提出を行っている。
- (8) 図書室の利用推進
図書室を積極的に利用するイベントを委員会や図書担当が企画している。中央図書館より本を借出し、調べ学習などに利用したりしている。

【生徒指導面】

- (1) いじめアンケート、生活アンケートを実施
- (2) 学期の初めにセカンドステップを実施
- (3) 全委員会の児童（5・6年生）によるあいさつ運動を実施

◎これからのとりくみ

【学習面】

主な課題から必要であると考えた力について

- (1) 言葉の力をつける言語活動について（国語）
経験不足を補うために読み聞かせやかるたなどで、語彙力を増やす。書くことへの苦手意識を下げるために、低学年から日記やふりかえりジャーナル、読み聞かせの後の感想など、楽しく自由に取り組む活動から、読み手に思いが伝わるように書くことへ移行していく。また、書く前に話す活動を取り入れ、しっかり広げてから書く活動に移る。
本から学ぶ機会をつくる。例えば、図書館を利用したり、借りた本を効果的に使ったり、意味調べなどを短時間で効果的に取り組むことで、学びの深め方を経験させ、主体的に学ぶ力を養う。
- (2) 考えや根拠を説明（記述）する力（算数）
算数用語を授業で使用する。算数用語を使い、説明できる力をつける。そのために、説明の型を示したり、国語など他教科での経験を活かすなど、子どもたちが意欲的にとりくめるよう支援する。振り返りや感想を書く場面では箇条書きで整理する練習などを積む。問題を読みとる力をつけるために教科書を使いヒントを探す力をつけていく。交流活動では、子ども同士の言葉で友だちの考えの伝わりにくい部分を補えるよう支援し、それをつかって学習のまとめをする。各学年の指導計画をすべての教員が把握して学年に応じた指導を行う。

継続して行っていくとりくみ

①少人数習熟度別指導 算数専科指導

②長南タイム（朝学習）

基礎基本の定着を意識したとりくみ

③サポートタイム（放課後学習）

④スキルアップルーム

⑤算数サポーター

⑥ノートの活用や工夫

自学の楽しさやノートの工夫の良さ等を感じさせるために継続する。

やる気ノート博覧会を月1回行い、頑張ったノートを掲示する。

⑦chromebook 持ち帰りを利用した学習課題に取り組む機会を定期的に行う。

【家庭学習面】

- ・スマホの所持率の高さ、家庭学習時間の低下やとりくみ方の課題などから、家庭でも継続学習が行われるよう家庭での学習の仕方（質や量）について、改善や定着を図る。
- ・chromebook などを活用した学習課題を出すなどして、ゲームや SNS 利用以外で活用できることを経験させる。
- ・自主学習（やる気ノート）を自分で計画してとりくむ。現在は宿題として出しているものを、自主的に変えていく。
- ・自主学習や音読の宿題に家庭の協力を増やしていく。
- ・スマホの使い方について高学年だけでなく、低学年から行い、デジタルシティズンシップ教育を行っていく。
- ・家庭への啓発を続ける。

【生徒指導面】

① いじめアンケート・生活アンケート

② セカンドステップ

③ 全委員会の児童（5・6年生）によるあいさつ運動

これらの継続により、自尊感情を育む。